

第三中学校区

「市全体の将来像について（第2回より）」

■ 交流・つながりに関する意見

- 近所の人たちと笑顔を交わせるような優しいまち。
- 子どもが伸び伸びとし、高齢者との交流ができるまち。
- 人との”つながり”をもっと持てるまちにしていきたい。
- コンパクトで顔が見えるまち。
- 子どもから大人までのつながりがある場所。
- 地域による温度差を解消されたまち。
- 人と人とのつながり、まちと人とのつながり、市民同士（多世代間）の交流の場があるまち。
- 環境や社会情勢が変化しても、つながりを大切にしたい人の心は変わらないまち。
- 協力し合う人が集うまち。

■ 住みやすさに関する意見

- 暮らしの拠点としての住みよい環境。
- 良い点を残し、課題を克服し、コンパクトで、ネットワークの充実した住みたいまち、行きたいまち、選ばれるまちとして持続的に発展することで都市価値の向上につなげていきたい。
- 住みやすいまち、日本一。
- 住みよい、完全な住宅地域の市とする。
- すべての人にとって「住みやすい」まちにする。
- 市街化調整区域が多く、これを市街化し住宅地を開発、税収も増える。
- 安心して、一生住めるまち。
- 新しい魅力を創出するまち。
- 「このまちが好き！」と言える人がたくさんいるまち。

■ 子育てしやすいまちに関する意見

- 子育てを中心に生活を行うのに最適なまちをめざす。
- 子育てしやすいまちづくり。

■ 若い世代、子どもが住みたいと思うまちに関する意見

- 子どもたちが将来大人になった時、住みたい、関わりたいと自然に思うようになるまちにしたい。
- 若い世代がたくさん住み、その子どもも生き生きと生活しているまち。

■ 自然に関する意見

- みどり豊かで、教育に力を入れているまち。
- 狭山池の魅力をより一層高めるための努力。

■ 市民と行政等の協働に関する意見

- 市民と行政との風通しがよい仕組みができたまち。
- 行政と市民、親と子、高齢者と若者がつながる住みよいまち。

■ 歴史・伝統文化に関する意見

- 狭山の伝統文化が大事にされているまち。
- 歴史文化遺産を活用したまち。

■ その他

- 規制・誘導のまちづくりから地域・地区に応じたまちづくりへ。
- 医療の充実したまち。
- スマート・コンパクトシティの実現。

第三中学校区の「まちの課題」と「取り組みたいこと」

(第5回より)

項目	まちの課題	取り組みたいこと
コミュニティ	○ 歩いていても人と会わない。人が居ない。 ○ 既存住民と転入者（建売住宅）と意見の融和が難しい。 ○ 自治会の役員の成り手がいない。 ○ 行事の参加度合いは秋祭りが主である。 ○ 地域の中の人々が気楽に集まれる場が少ない。	○ 親子で参加する、できる行事を考える。子どもを育てる。 ○ 親を育てよう！（自転車等のマナーなど） ○ 地域で触れ合いのできる行事を考える。
土地事情	○ 市街化調整区域が多い。市街化区域に変更すれば住民や税収が増え、活性化できる。 ○ 田畑が別の建物になってきているので、風景が変わってきている。 ○ 農地の継ぎ手がいない。 ○ 場所によっては買い物が不便。	○ 市街化調整区域が多い問題に対しては、行政から、大阪府等に働きかけを行う。
交通事情	○ 道が狭い。生活道路なのに通行量が多い。自転車の飛び出しも多い。 ○ 公共施設が集まっているのに、横断歩道が危ない。（信号があるものと無いものがある） ○ 幼稚園、小学校、中学校、高校の通学路があるため子どもが多く、危ない。	○ 通学用のグリーンベルトがガードレールの道側に設置されている箇所があり、不十分。 ○ 警察に交通事情を理解してもらい、対策を打ってもらう必要がある。 ○ 横断歩道全体の見直し。
情報発信	○ 高野街道の魅力発信。 ○ 歴史的価値のある建物などが多いが、広報や説明がない。	○ 魅力発信の情報誌を作る。（学校区ごとや市民と一緒に） ○ 市全体として魅力発信の取組を。
公園・遊び場	○ 子どもの遊び場が無くなってきている。公園などの整備が全くされていない場所も。	○ 公園の雑草処理だけでも良いのでやる。 ○ 地域の公園活用。プレーパーク（冒険遊び場：子どもが大人の見守りの中、自分の責任で遊ぶ場）をひらく！
ごみ問題	○ コンビニの数が多いので、路上でゴミを捨てる人が多く、ゴミが多い。	○ 自販機や路上放置のゴミ問題を考える必要がある。 ○ グリーンバード（街をきれいにするプロジェクト）のような活動をこつこつと行う。 ○ ゴミ捨て禁止の看板を、行政にたくさん作ってもらう。